

令和6年度門真市障がい者福祉センター指定管理者総合評価

【評価対象年度】：令和5年度

施設のサービス水準の視点コメント

利用者へのアンケート調査において、「施設の利用のしやすさ」「職員の対応・態度」「実施事業の充実度」について約8割の利用者が大変満足、やや満足と回答している。また、意見や要望においてもできる範囲で利用者とその家族のニーズに答えられるよう対応しており、利用者のニーズに寄り添ったサービス提供ができていると評価する。また今年度はベッドやテーブル、壁や床等の修繕も行い、利用者が安心・安全に利用できる環境を整えることができた。その他にもコロナ禍以前のような利用者とその家族、地域の方とも交流できるイベントも行われ、喜びの声があがっていた。

収支状況 コメント

事業収入の実績が予算より大幅に少なかった。原因としては生活介護では、施設入所や自立傾向にある利用者が他事務所へ移行したこと、放課後等デイサービスでは、児童の卒業による利用者数の減少したことが挙げられる。また支出については、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、職員の出勤日数の増加による給与費の増加、イベントの開催による業務委託料の増加があり、その結果約160万円の赤字となった。安定的に利用者数を確保することが重要な課題であり、経費削減にも努め、今後収支が改善されることを期待する。

市による総合評価 コメント

今年度も指定管理者の過失による送迎車両の物損事故が2回あった。利用者の送迎に関してさらなる安全運転の徹底や研修等での運転技術の向上を求める。また、生活介護、放課後等デイサービス共に利用者数の確保が重要な課題であり、見学者や体験希望者の積極的な受け入れ、ホームページ等における情報発信の活用を行い、利用者確保に努めていく必要がある。しかし、当指定管理者は、利用者やその家族のニーズ把握に努めるためのアンケート調査において、約8割の利用者が「施設の利用のしやすさ」「職員の対応・態度」「実施事業の充実度」について大変満足、やや満足と回答している。また、感染症対策を継続しながらイベントを積極的に実施しており、今年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことによりコロナ禍以前と同じように地域の方との交流機会を設けることができた。利用者や家族からも喜びの声が上がっており、利用者寄り添った運営ができている点について評価する。また、研修についても外部研修の内容は全体に周知を図り、ケース検討では利用者や障がいについて理解を深めるとともに、職員全体の情報共有を図っている。今後も職員体制を強化し、利用者が適切な支援を受けられることができる事業運営を期待する。その他に地域の障がい児（者）施設では受け入れが難しい医療的ケア児（者）や重症心身障がい児（者）を率先して受け入れており、今後も重症心身障がい児（者）の生活を守る役割を期待する。以上の理由により、概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされていると判断した。

総合評価

B

総合評価区分凡例

- A：協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B：概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C：協定事項等の水準以下であった